

心をつなぐ、音楽のある毎日

みゆ〜じかん



2010
秋号

制作・発行 / 株式会社 **マツイ楽器店**

やっと秋らしくなりました。今年の夏は厳しかったですね。元気でお過ごしでしたか？
温かい紅茶を淹れ、木々が赤く染まるのを見ながら、お気に入りのクラシックの名盤を聴く—
秋にはそんな、落ち着いた豊かな時間が似合いますね。
今号2面では、ジャズの特集も。クラシックとはまた違う自由な音「楽」、魅力的です。
街のあちこちでは演奏会や発表会が花盛り。いろんな形で「音楽の秋」を堪能してくださいね。



ショパン生誕200周年記念連載

ムツシュ 松石の ショパンの散歩道

第2回 祖国を愛した「音楽の戦士」

◆◆◆ワルシャワでのショパン

ショパンは今からちょうど200年前の1810年、ポーランドのワルシャワで生まれ、二人の姉と一人の妹がいるごく普通の幸せな家庭に育ちました。少しひ弱だったのですが、幼少のころからピアノ・音楽の才能は突出していました。高等音楽学校でのショパンの習作を見たシューマンが、「諸君、天才だ。帽子をとりたまえ」という有名な言葉を残しているほどです。

1830年、ショパンは20歳になり、デビューコンサートが開かれました。その時演奏されたのが、ピアノ協奏曲1番・2番です。引っ込み思案なショパンは当時、天使の声を持つといわれ男性から大人気だったコンスタンツィアに恋をしますが、口もきけなかったそうです。まるでショパンはマドンナに憧れる物静かな青年？でした。その思慕の想いが協奏曲2番の2楽章(アダージョ)につながったと言われています。ショパンも青春していたんですね。

◆◆◆ショパンが音楽の「戦士」となったわけ

その頃、ショパンの祖国ポーランドはまだ、地図上に存在すらしていませんでした。ロシア・プロシア・オーストリアによる三国分割の真っ只中だったのです。ポーランドに独立の機運が高まっていた事もあり、ショパンは祖国の為に皆と一緒に戦いたいと申し出ますが、父ニコラは反対。「お前は祖国の革命軍の軍務に耐えるにはあまりに体が弱い。音楽の才能をもって国に仕えるんだ。」と言われ、ポーランドを出国します。

家族・友達・恋人と別れ、多分二度と会えないだろうという旅に出るとき、彼はどんな気持ちだったのでしょうか？音楽の才能には溢れていたけど、普通に生きていたショパンの心に、ここで大きな変化が起きたわけです。父の言葉をかみしめ、この瞬間からショパンは祖国の為に「音楽」で戦う、「戦士」になったのではないかと思います。

「音楽の戦士」ショパンは、祖国ポーランドのリズムをモチーフとしたポロネーズ、マズルカなどを多数作曲しました。ワルシャワ没落のときに抱いた祖国への思いが「革命のエチュード」につながります。「音楽で祖国の存在を知らしめる」という彼の戦いは、見事に成功したのです。

出国の時に友人からもらった祖国の土が詰まった銀杯を、彼はいつも手元に置いていたそうです。銀杯を見てショパンは何を考えていたのでしょうか？ちなみに、その土は死後、遺言により彼の遺体に振りかけられたと言われています。

～秋の夜長にジャズはいかが～

ロングインタビュー：納谷嘉彦さん

「身を委ねたら、気持ちいい。体の揺れが止まりませんよ」



納谷嘉彦 (なや・よしひこ) / ピアニスト、
作曲家。1978年「第1回日本ジャズグランプリ」
で最優秀ソロイスト賞を受賞。納谷嘉彦(pf)3と
して、名古屋を中心に活動。1982年、バイオリニ
ストの寺井尚子と「プレザン・プレザン」を名古屋
で結成。2005年から名古屋音楽大学音楽家特別講
師に。自身の演奏活動の傍ら、この地域の後進の
育成、指導に力を注いでいる。

この季節、全国各地でジャズイベントが開催されています。自由でオシャレなイメージの「Jazz(ジャズ)」。楽しみ方を、ライブを終えたばかりの納谷嘉彦さんに伺ってきました。私(松石：マツイシ楽器店社長)とはなんと、誕生日が同じ！という縁で(?)、もう十年来の付き合いなんです。

♪「こんなもの、何が面白いんだよ」

★納谷さんとジャズとの出会いはいか？

納谷さん「高校を出て、ヤマハがやっている合歓音楽院(現ヤマハ音楽院)に入学し、寮生活を始めたんです。そこで同室のヤツに誘われてね。でも最初は、何をやっているのか全然分からなくて。全然面白くも何ともないし、『何弾いてもいいんだよ』って言われるけど、逆に何弾いていいか分からなくなっちゃって」

★ところが魅力を感じるようになったんですね

納谷さん「僕はクラシックをずっとやってきたけど、実は譜面がちよっと苦手で。自分で実践しながら作曲するような自分の音楽をやりたいと思った時に、ジャズはピッタリだったんですよ」

♪小さなライブハウスで生のジャズを

★どんな風に聴くと、ジャズの良さが分かりますか？

納谷さん「とにかく理屈なんか抜きにして、音楽に身を委ねてみることでですね。作家の司馬遼太郎が言っているでしょ、『芸術っていいのは気持ちがいいもんだ』って。心地よくスウィングしているジャズって、体が自然と揺れてとても気持ちいいものです。そこにお酒が一杯入ってね…、ああ、タバコはダメですよ」

★放っておいてください(笑)。「ジャズ入門」に、お勧めのアルバムはありますか？

納谷さん「好きなアーティストから入る、騙されてみる。ジャズ好きな友人の『いいか、これ聴け』を聴いてみる。この3つですかね。評論家がいろいろ書いていますけどあまり信じないで、自分の好きなアーティストが歌っているジャズから聴いてみるのが、一番入りやすいのでは。例えば、ロッド・スチュアートも、ジャズのアルバムを出していますよ。僕は最初はテイクファイブから入りましたね。そういう人、結構多いと思いますけど」

★最近ではジャズに魅力を感じ始めている若い人も多そうですね。そういう人たちが勉強しようと思ったら？

納谷さん「まずは実際にライブを見ることです。今って世の中あまりにもバーチャルで…。だから行ったつもり、知ったつもりになっているでしょ。自分の目で見て聴いて、匂いを感じて、ミュージシャンと話してみるとか、そういうことが大事だと思いますね。それもホールではなく、ライブハウスで。いい生演奏を、小さいところで。それが一番ですね」

♪みんなで楽しめる、それが僕にとってのジャズ

★最後に、納谷さんにとってジャズって何でしょう？

納谷さん「いろんな人に出会える、その橋渡しをしてくれているのがジャズという音楽ですね。僕はジャズを通していろんなことを考えるし、聴いて下さった人が『良かったね』って笑顔になってくれたら幸せだし。だからやっぱり、自分だけ楽しくてもダメ。みんなで楽しめる、それがイイ、それが僕にとってのジャズですね」—— ありがとうございます。

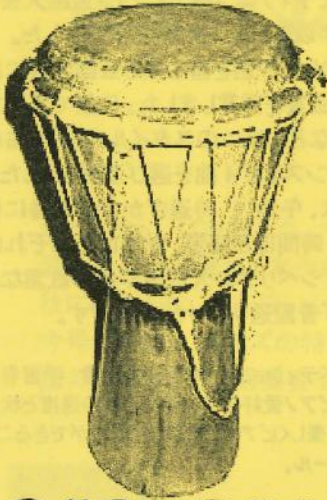
松石のひと言地元情報…ロメオさん(喫茶店)、ミスティーさん(Bar)、一期屋さん(焼き鳥屋)では、BGMにジャズが流れていますよ。ジャズを楽しみながら一杯いかがでしょう？



チーフ久野の見てこれ！名・珍楽器

今回の楽器は

「ジャンベ」



今回紹介するのは、ジャンベ！西アフリカの伝統的な太鼓で、縛り付けてある皮の張り具合を変えて演奏する楽器です。太鼓といえば、たいていはパチで叩くものですが、ジャンベの場合は皮の張り具合を曲に合った高さや音色に調節したら、パチを使わず手で叩くのが一般的♪

アフリカの大地を連想させる音色は、とても大きくて迫力満点！とても民族的なサウンドが魅力的で、世界各国でも人気が高い民族楽器なのです。最近では、民族音楽だけにとどまらず、ジャズやロックでもその力を発揮しています

ボンボン、カンカンと叩けば人間の鼓動を感じさせるジャンベ。機会がありましたらぜひ叩いてみてはいかがでしょうか。

サウンドメイトマツイシ／イオンモール東浦エンジョイライ
フ館内。楽器販売、貸しスタジオ。0562-85-3726 12:00～20:00
(土日祝は10:00～)、月～土はスタジオのみ～24:00 無休



チーフ糟屋の イロドリ♪ おたまじゃくし

今回の楽譜は

「ジ・エンタティナー」
(スコット・ジョブリン)

今回ご紹介する曲は、どこかで聞いたことのあるメロディーと、軽快で裏拍を強調したリズムをもった曲です。19世紀末、アメリカで、ジャズの流行る前に流行した「ラグタイム」というジャンルの名曲「ジ・エンタティナー」という曲です。

作曲者は、1868年アメリカのテキサスで生まれた、黒人のスコット・ジョブリンです。

調べてみて驚いたのは、曲が長いこと！最初のテーマメロディー部分しか知らなかった僕は、その後展開するテーマメロディーが3つもあることを、最近知りました。1曲通して聴くと、なんだかチャップリンのコミカルな映画を見ているような、愉快的気分になります。

CMや映画などでもおなじみのこの曲。さわりだけでも弾けるとカッコいいですよ！

ピアノガーデンマツイシ／ピアノ専門店。約40点を展示。半田市北二ツ坂町 1-12-6
0569-26-3330 10:00～18:00 水曜休

僕の青春はバンドだった

松石奉之(社長)

連載第2回

「僕の髪が肩まであったあの頃」

「高校バンド合戦」というイベントが花盛りだったあの頃、「♪僕の髪～は、肩まであって～♪」ロンドンブーツを履いてチューリップハットを被った友人とステージに立っていた。

高石知也の受験生ブルースが流行った頃にフォークギターを手にし、ザ・フォーククルセダーズの「悲しくてやりきれない」や、加藤和彦と北山修の「あの素晴らしい愛」を熱唱し、拓郎や陽水に熱中し、チューリップの心の旅でフォークロックに転向し、オリジナル曲をひっさげてバンド合戦に挑み、文化祭にも出演した。

今は滅多に開けないYAMAHA FG850のハードケースの中に、オリジナル曲の手書き譜面が入っている。

あの頃、楽器屋のスタジオで練習するって憧れだった。今はスタジオも手軽になったな～。もう一度、バンド仲間と文化祭に出演するか！と思う今日この頃。

ミュージックメイトマツイシ／管弦打楽器、LM楽器専門店。貸しスタジオあり(11:00～21:00)
半田市泉町 36 0569-24-0675 11:00～19:00 水曜休

イベント&報告

★【イベント】2010年第17回ピアノフェスティバル in 知多 褒賞コンサート～ピアノコンチェルトの夕べ～

2010年第17回ピアノフェスティバル in 知多の受賞者から、11名の若きピアニストが出演します。指揮者濱津清仁先生をお招きし、セントラル愛知交響楽団の演奏者の方々とエレクトーンSTAGEAでのオーケストラ演奏をお送りします。

日時/11月23日(祝)開場 16:00 開演 16:30

会場/ゆめたろうプラザ 輝きホール

チケット/前売 1,200円 当日 1,400円

販売所/マツシ楽器店各店舗

問合せ/同店(0569-21-3158)



★【報告】ピティナピアノコンクール全国大会で金賞!!

弊社の音楽教室に通う「沢田蒼梧君」(亀崎小学校(小6))が、第34回ピティナコンペティション全国大会ソロ部門C級(小学6年以下)で、「金賞」に輝きました。

約5500人が参加した予選を勝ち抜き全国大会に出演、4人が選ばれる金賞を受賞しました。決勝で沢田君はバロックやロマンなど、四つのスタイルの課題曲から、グリエールのロマンスなど4曲を選び演奏しました。

コンクール当日は、午後1時過ぎからの本番に備え、午前5時から7時間ほど練習。本番はそれぞれ曲のイメージに合わせ、シベリアの大雪原や秋の紅葉などを思い浮かべながら「普段通り弾けた」そうです。

※ピティナ・ピアノコンペティション…ピアノ指導者、学習者など、日本中のすべてのピアノ愛好者が、それぞれの進捗と状況に応じて、より深く、より楽しくピアノを勉強することができることを目指したピアノコンクール。

みんなの広場

今号のテーマ

「演奏会・発表会の思い出」

今年の発表会は、たくさんれん習してしっばいしないようにしたいです。きょ年は曲をまちがえてしまったので、くやしかったからです。(あやかさん/ミュージックガーデン大府)

今年の夏、JOC in つま恋で演奏しました。リハーサルや本番など合わせて3回ステージで演奏しました。最後の本番のときは、たくさんのお客さんの前で一番楽しく弾けて、弾き終わった時に今まで味わったことのない大きな大きな拍手をもらいました。

今までこんなに大きな拍手をもらったことがなかったので驚きました。すごうれしかったです。(小寺翔子さん/ピアノガーデン)

私達の世代は「エリーゼのために」とか「乙女の祈り」をピアノで弾くのが憧れでした。

40歳を過ぎた時、エレクトーンELシリーズが出て、技術があまり共なわなくても楽しめると思ったのが今でも継続しているきっかけです。

5年前、演奏グレード6級が取れたところで、最近では年間2回曲を変えて発表会に出演したりして、地道に実力をつけている次第です。1日1時間、毎日練習できたらベストです。体力も筋力も必要と思い、ストレスを発散しながらエアロビクスも続けています。

「もうやめようかしら」「ここでやめるべき」と誘惑はいつも自分のまわりにただよっています。誘惑に負けないよう今日もがんばっている私です。(水口孝江さん/東浦教室)

「みんなの広場」投稿募集

上のコーナー「みんなの広場」では、皆さんからの音楽にまつわるエピソードを募集します。右の用紙に記入いただくか便せんなどにお書きいただき、各店舗・教室のスタッフにお渡しください。

(全て掲載できるわけではありません)。

次回(冬号)のテーマは…

「クリスマスと音楽」

応募締切は11月20日(土)です。

お名前 (ペンネーム可)

さん

教室名

教室